

第9回「健やか親子21」推進協議会総会 議事要旨

1. 日時 2010年3月1日(木)

2. 場所 厚生労働省 講堂

3. 出席者

(健やか親子21推進協議会)

伊藤会長、柳澤副会長

(NPO)SIDS 家族の会、(社福)恩賜財団母子愛育会、(財)家庭保健生活指導センター

(社団)日本子ども健康科学会(子どもの心・体と環境を考える会)

(NPO)児童虐待防止協会、(財)性の健康医学財団、全国児童相談所長会

(社)全国社会福祉協議会、全国助産師教育協議会、(社団)全国保健センター連合会

全国情緒障害児短期治療施設協議会、全国保健師長会、全国養護教諭連絡協議会

(NPO)難病のこども支援全国ネットワーク、(社団)日本家族計画協会

(社団)日本栄養士会、(財)日本学校保健会、(社団)日本歯科医師会

(社団)日本看護協会、日本思春期学会、日本児童青年精神医学会

(社団)日本小児科学会、(社団)日本小児科医会、日本小児看護学会

(特社)日本小児保健協会、日本助産学会、(社団)日本助産師会、日本性感染症学会

日本赤十字社、日本タッチケア研究会、日本保育園保健協議会

(財)日本母子衛生助成会、日本母性衛生学会、(社団)日本産婦人科医会

日本母乳の会、(社団)日本薬剤師会、(社団)日本理学療法士協会

(財)母子衛生研究会、(社団)母子保健推進会議、(中)日本小児歯科学会

日本小児総合医療施設協議会、(中)日本周産期・新生児医学会、日本学校保健学会

日本小児神経学会、日本糖尿病・妊娠学会、日本母乳哺育学会(一社)

(社団)日本女医会、(社団)日本泌尿器科学会、日本臨床心理士会

全国母子保健推進員連絡協議会、(財)児童健全育成推進財団、すくすく子育て研究会

(財)こども未来財団、健康日本21推進フォーラム、日本SIDS学会

(財)母子健康協会、FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会、日本未熟児新生児学会

(財)児童育成協会、全国乳児福祉協議会、全国児童養護施設協議会

(関係機関)

加藤国立保健医療科学院部長、稲垣国立精神・神経センター部長

文部科学省 米本生涯学習政策局政策課家庭教育支援室長補佐

(厚生労働省)

伊岐雇用均等・児童家庭局長、田河総務課長 他

(事務局)

母子保健課

4. 議事要旨

(1) 健やか親子 21 推進協議会の活動報告

- 各課題の代表幹事より、平成 21 年度の活動報告が行われた。
 - ・ 課題 1「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」では、今年度開催された幹事会開催状況（勉強会を 5 回開催）と内容（子どもの自殺（うつ病）、女子の月経教育、性感染症、医療外の支援（ドゥーラ効果））についての報告がなされた。
 - ・ 課題 2「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」では、幹事会を 1 回開催し、妊娠（医療機関や医療従事者の連携、妊婦や行政との関わりなど）や不妊（医療費や多胎の問題など）の課題について検討したことを報告。今後、幹事会へ新たに 1 団体の参加を要請したいとのこと。
 - ・ 課題 3「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」では、幹事会の開催状況（会議とシンポジウムで計 3 回開催）と内容（子どもの権利、シンポジウムなど）について報告がなされた。シンポジウムは、院内学級・在宅支援対策をテーマとして開催し、好評であったが、将来的な意義や予算確保に課題があるとのこと。
 - ・ 課題 4「子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減」では、幹事会を 1 回開催し、課題の 3 本柱（心の安らかな発達、育児不安の軽減、虐待の防止）について協議した内容（母親のメンタルヘルスや親支援の必要性、関係機関との連携の必要性など）の報告がなされた。
- 関連の行政機関から、「健やか親子」21 に関連した取組の紹介が行われた。
 - ・ 文部科学省男女共同参画学習課家庭教育支援室からは、家庭教育支援、特に「早寝早起き朝ごはん」運動の取組について紹介がなされた。
 - ・ 国立保健医療科学院からは、設置目的、組織、主な研究（胎児と妊産婦の栄養、低出生体重児、揺さぶられ症候群、乳幼児身体発育調査、ペアレントトレーニング、ペアレンティングプログラム、産後育児支援体制の評価、母子健康手帳）と研修（公衆栄養、虐待防止）について、紹介がなされた。
 - ・ 国立精神・神経センター精神保健研究所からは、自殺予防総合対策センターで取り組んでいる事業（若年者の自殺に対する緊急メッセージの配信、要因分析や対策についての調査研究に着手）、発達障害に関する研修事業（指導者向け研修の開催）の紹介がなされた。
- 4 課題の報告、関連機関からの情報提供についての意見、参加団体からの情報提供が行われ、「健やか親子 21」で検討や取り組むべき課題として、以下のような提案があった。
 - ・ チーム医療の推進（院内助産システム、助産師外来など）
 - ・ 「産科危機的出血への対応ガイドライン」の普及
 - ・ すべての出産に新生児蘇生の講習を受けた人が立ち会えるよう取組を推進
 - ・ 確実な避妊法を採用できる環境を整える（児童虐待防止の観点からも）
 - ・ 看護師、女性医師についても、安心して継続して働ける体制作りが必要（女性本来の生殖時期に子どもを産んで仕事をするということが実現できないのではないかと、との問題意識）

(2) 「健やか親子 21」第 2 回中間評価と今後の推進方策について

- 母子保健課から、「健やか親子 21」第 2 回中間評価報告書案について報告があり、内容の確認が行われた。

(3) その他

- ・ 事務局より、連絡事項（行動計画の提出依頼など）が行われた。